不連続シリーズ「見ーつけた」

見ーつけた！

「一枚の写真」その後

前回、熊谷の戦災の写真をご紹介しました。熊谷は七十年前の八月十四日に空襲をうけています。その直後に写真家・佐藤虹二氏（一九一一～一九五五）が撮影した写真でした。

今年の八月十五日付け読売新聞朝刊全国版「戦後70年」特集でも使われていましたから、ものすごく有名な写真なのでしょう。前号でも書きましたが、虹二（こうじ）はペンネームで現壇家総代の佐藤憲史さんの御父君の長吉さんのことです。

ところで、寺報をみなさんにお届けした数日後、空襲の時は四歳だったというある壇家さんからこんなお便りをいただきました。

「戦争の悲劇は幾度となく報道されていますが、それは後に評価されることで、その場に居合わせた当事者は悲劇という言葉は出ないのではないでしょうか」

手紙を読んだ瞬間「しまった」と思いました。寺報をあわてて読み直して、「悲劇」の文字を探しました。拙い文章を書くときに、手垢のついた定型句はなるべく使わないことを自分への戒めとしているのですが、やってしまったか。

悲しいことを「悲劇」と書いても、あたりまえすぎて能がない。しかも、あれは劇ではなくて現実だったのですから、いただけない表現です。

おのれの書いた駄文を読み直して、ほっとしました。「悲劇」の文字を見つけたのは、私のことばではなくて、写真集『埼玉の昭和』（埼玉新聞社刊）からの引用文のなかでした。こうあります。

「晩秋素描」
佐藤虹二撮影　東京都写真美術館所蔵

「（写真は）佐藤虹二氏の畢生の作品。悲劇の空襲を現在まで語り伝える象徴となった」

新聞社が編集した写真集だからといって、新聞記者の記述と決めては早合点かもしれないけれど、作家の丸谷才一氏（一九二五～二〇一二）に「泣虫新聞」と題した文章があります。

「（新聞の見出しに）悲しみの一周忌とあって、これは大阪・千日ビルの火災の一周忌のことだが、一周忌というのは大体悲しいはずで、喜びの一周忌なんてもともとあり得ない」

と、しごくまっとうなことを述べた後、激烈なことばで結びます。

「つまりかういふ具合に、空疎なことを感傷的に記した歌謡曲、ないしはナニハブシの下手な真似が、日本の新聞の基本的な言葉づかいなのである」（『日本語のために』新潮社刊）

鋭い筆勢ですが、丸谷氏は文芸批評の神さまと称された「小林秀雄の文章は入試にだすな」と、訴えたことでも知られています。その後、大学入試で小林秀雄は出題されなくなったのですが、丸谷氏の逝去後の二〇一三年に、センター試験で出題されて話題になりました。

さて、丸谷氏が力説するように、空疎で感傷的にならないためには、どうすれば良いのか。虚飾を捨てて事実を積みかさねればよいのです。いってみれば、余計なものを洒（あら）い落とすわけです。つまり、お洒落。

姿が不細工だから、生き方だけでもお洒落にしたい。

9月20日（日曜日）から23日（水＝秋分の日）まで墓地では花と線香を用意しております。

本山・妙心寺微笑会／信を深める旅

募集

10月21日9時50分京都駅集合

本山・妙心寺の文化財護持を目的とした組織に微笑会（みしょうかい）があります。会長は稲盛和夫さんです。松岩寺の檀家さんでも数名の方に入会していただいてます。

この会の総会が十月二十二日（木）に、妙心寺の法堂（はっとう）で開かれます。その前日に「信を深める旅」が企画されます。今年は洛北の光悦寺・源光庵・京都御所特別拝観です。会員（年会費壱万円）以外でも数名ならば参加できます。参加ご希望の方は**9月10日**までに松岩寺までお知らせください。詳細をお知らせします。

○　旅　程　○

10月21日（水）

9時50分　京都駅八条口集合　バスにて光悦寺・源光庵・京都御所拝観　宿泊は日光プリンス京都

10月22日（木）

午前十時より妙心寺法堂にて微笑会総会

記念講演・玄侑宗久師

大方丈にて昼食後解散（午後1時頃）

※旅行費用／宿泊・総会　37，000円

（21日京都駅集合から22日解散までの費用で、往復の交通費は含まれません）

松永安左エ門／追っかけの旅　2弾

募集

11月7日　10時半　小田原駅集合

福島の原発事故以後、注目されているのが松永安左エ門（1875～1971）です。NHKでテレビドラマにもなるようです（9月19日放映）。

電力の鬼ともいわれている昭和の実業家の遺跡を追いかけて、この春には墓所のある平林寺と東京国立博物館を訪れました。第2弾は、安左エ門が晩年を過ごした小田原の老欅荘（ろうきょそう）を訪れます。昼食は箱根湯本の初花でお蕎麦でも食べて解散。その後は日帰り温泉へ行くもよし。どこかへお泊まりになるのも結構。ご自由にどうぞ。参加ご希望の方は**10月15日**までに松岩寺までお知らせください。詳細をお知らせします。

○　旅　程　○

12月5日（土）

10時30分　JR小田原駅集合。箱根登山鉄道で箱根板橋下車徒歩10分で老欅荘。拝観。拝観後、箱根登山鉄道で箱根湯本へ。「初花」で昼食。

午後2時頃解散。

旅行費用／往復の交通費、昼食など各自でご負担いただき、別途徴収するものはありません。

※熊谷から小田原へは直通で行けるようになりました。ずいぶん時間がかかるし運休も多いですが、熊谷発7時39分の普通列車で小田原着10時22分です。